

自・公県政を許してはならない

社民党二議席の必獲を！

全国統一選挙から半年遅れの県議選が11月5日告示、15日投開票に突入する。とは言え残念ではあるが、社民党が候補者を擁立できたのは福島市といわき市の二選挙区だけである。郡山・会津若松においては、最後まで擁立に向けたざりざりの論議が展開されたが結論は見送りととなった。

今後は残された期間、二市の党員及び党支持者、そして後援会の皆さんの奮起に期待したい。また県内各地から応援部隊が駆けつけている。「OB・Gニュース10月号」にも掲載したが、全国的な規模で戦われた「反安保関連法案」のうねりは未だ消えることなく続いている。この実情を社民党にどう引き付けるか。それが最大の課題として最後まで追求されなければならない。その意味でも地元選対の「工夫の努力」に期待するところ大である。

そこで、あらためて今般の県議選の意義を考えてみたい。多くの政治的課題が山積している

県は「国の下請け機関」ではない

◆まず取り上げたいのが「東電第二原発の廃

炉」である。しかし、安倍内閣の「再稼働推進」への転換と、薩摩川内原発・四国伊方原発の再稼働の中で、福島県議会の「廃炉決議」は灰色となつていふことを見逃すことができない。

◆放射能による県民のとりわけ児童の健康を守ることである。甲状腺の疾病要因をめぐる医学的知見は定まつてはいない。しかし、継続的な健康診断と、必要な治療の「公的保障」の確立については多くの県民の望むことである。

◆そして「原発基地内の実態管理」がある。汚染水対策の「放射能除去装置アルプス」にしても、「凍土遮蔽壁」についても現在どうなつているのか。さらに「基地内労働者の安全衛生対策」と「東電の責任」を県は把握し、管理しているのだろうか。県民は、問題が発生してからの報道ではじめて知るといふ実態にある。

◆さらに、福島市をはじめ、先の市議会選挙の中で受け止めたものに、高齢者の医療・介護問題がある。そして「要支援者の介護サービス費を介護保険から外す・要介護者1・2を施設介護からの締め出す・在宅による老々介護、看護の限界」などへの不安が明らかになった。

これらはすべて市町村による「自主的支援事業」に委ねられる。その結果、高齢者支援サ-

ビスの実態が市町村間の格差拡大に結び付くことが危惧されている。これに対し県政は、この事実を黙認することは許されない。

原発再稼働の動きに見られる自治体の姿勢に加え「知事」の政治的決断は大きい。また、健康問題も、基地内の管理問題も、さらには介護問題もここを避けて通ることはできない。

「県政の軸足」にかかわる政治課題である。11月県議選は、その意味でも「自・公県政」にしてはならないということでは一致できるはずである。そのための共闘は、今日的な政治的課題ではなからうか。

候補者を擁立できなかった地区の責任は

よく「蝸壺でやり過ぎず」ということが言われる。つまり、厳しい風が過ぎ去るのをじっと待つという譬えである。しかし、一旦腰を下ろしてしまふと、壺から這い出すには数倍の努力を必要とするということも忘れてはならない

安倍自民党内閣は、来年夏の「参議院選挙」を「国のかたちを変える」ための選挙と位置付けている。よって、過般の宮城県議戦での戦いはそのことを表明している。当然にして福島県にも「夏の予備選挙」と受け止めなければならない。であれば、候補者を擁立できなかった地域の党の方針が必要ではないかという提起である。不幸にして、前記の「譬え」が現実になったとするなら、後世に残す私たちの責任は大きいということではなからうか。

「県の会事務局長 降矢通敦」

改めて「徴兵制度」の復活を考える

戦時の「内務班」をご存知か!!

NHKの深夜放送番組、朝4時台の「明日へ
のことば」を聞く。出演をしていたのは版画家
であり、彫刻家でもある浜田知明さんである。

イヤホーンを耳にしたのは番組の途中から
であり、朝食後あらためてネットを開き「日曜
美術館版画家・彫刻家『浜田知明95歳』のメ
ッセージ」を見る。

そこには「一度見たら忘れられない絵がある。
みずからのど元に銃口を突きつけ、今まさに
足で引き金を引こうとしている若い兵士、骸骨
のような目から涙がこぼれ落ちる。作者は浜田
知明（はまだ・ちめい）95歳。1939年東
京美術学校を卒業後、中国戦線に送られた浜田
が、戦後、絞り出すようにして描いたのが銅版
画『初年兵哀歌』シリーズ（1951〜54）
だった。串刺しの死体、強姦された裸体、目を
覆う戦場での情景が展開する。ゴヤの『戦争の
惨禍』を思わせる戦争と人間の記録は世界的な
評価を獲得し、昨年11月から今年2月まで
ニューヨーク近代美術館で開催された戦後の
日本前衛作家展にも展示され、大きな反響を呼
んだ」と銅版画家の中林忠良さんは解説をして
いる。

その浜田さんが「内務班」という言葉を番組
の中で述べていた。それは「赤紙徴兵」の新兵
が営舎に住み、隊員の食事・入浴・洗濯、そし
てトイレや厩舎の清掃。馬の手入れ。戦地にあ

っては医療の補助。そして運搬、工事など、内
務班の作業は限りなく広く多い。

いかなる場合でも、さらに軍隊の形、装備が
変わろうとも、「内務班」が必要である。そこ
に「徴兵」という制度の必要性が生まれると浜
田さんは述べている。

そこで再度「徴兵制」の問題を取り上げたい。
「いつまで取り上げているのか」という自民党
議員からの指摘があるだろう。いわき出身の森
まさ子氏も言うだろう。しかし、今なお取り上
げているのが貴方たちであり、その筆頭が自民
党の高村正彦副総裁であることを指摘してお
きたい。その高村副総裁は、9月8日、山梨県
内であった山東派の研修会で講演している。安
全保障関連法の審議に関し（「野党と」先鋭的
にぶつかっている時は徴兵制（導入につながる）
などのデマを飛ばされ、国民を不安に陥れた」
と野党の対応を批判。その上で「冷静になれば
国民は賢いので分かってくれる」と述べ、理解
促進に向けて説明を続ける考えを強調した。

彼らは「デマ」という。その根拠に「ハイテ
ク化した軍隊に「即製の徴兵」は通用しないと。
そのことは世界の趨勢であり、ほとんどの国は
徴兵制度を取っていない」ことを強調する。

そこで再度問いたい。イラク特措法にもとづ
く自衛隊の派遣時に、現地輸送量の9割以上が
民間企業の手によって行われていたことが先
の国会で明らかになった。

つまり「労災扱いの戦場労働者」である。

トイレットペーパーで応募を呼びかける

いかにハイテク化された戦争（軍隊）であれ、
人的輸送力が必要であり、炊事・清掃・純看護
は必要である。つまり「現代内務班」である。
浜田さんはそのことを述べられていた。

「後方支援」の中で、配置された自衛隊の守備
範囲は無限に広がっていく。そのことは、同時
に「内務班」の持ち場も拡大していくことを意
味する。だから「人力」は欲しい。滋賀県公立
中学校に、自衛隊滋賀地方協力本部（大津市）
が「自衛官等募集中」などとデザインされたト
イレットペーパーが配られ校内で使われた。

「トイレットペーパー入隊宣伝」までして「人
の応募」を求めている。これは何を意味するの
だろうか。「デマを飛ばしているのは高村さん
貴方たちではありませんか。戦争とは、軍隊と
は何かを知っておられながらそれを隠してい
る、誤魔化している張本人は貴方たちです」と
の批判の言葉を返したい。



「いつでも、どこでも、だれでも」

「必要な時に・必要な介護を」

「自分の判断ができるときに、自分の老後の設計をたてよう」。このことはよく言われるが、私たちは、「今が精いっぱいである」とか、「面倒なことは考えたくない」ということで後回しにする場合が多い。しかし、意外と定年後の「老いらく」の期間は短いことを知る必要がある。OB・G郡山の会は「郡山市の介護事業計画」を知るところから、自分の介護を考えようとする意味で勉強会を開催した。参加者は43名であった。

さて、そこで説明をされた郡山市の事業計画であるが、残念ながら「厚労省」が提示している内容を超えるものではなかった。介護保険制度が施行された時、私たちは「地方分権の行政」を試みるものと期待を膨らませた。つまり、地方の特性を生かし、地方自治の知恵と工夫を活かした住民サービスをもたらすことができる」と期待したからである。しかし、本年4月に施行された「介護保険制度の改正」はその期待を裏切るものであった。

そのポイント」をあらためて整理したい。

◆65歳以上の保険料を9段階に増設し、第1段階の低所得者（世帯全員が市民税非課税である）の保険料を年額27・150円（現行22・630円）に低減する。さらに平成29年度の消費税10%の施行段階では第3段階まで

の対象者の保険料を低減する。

◆一定以上所得（現役並み所得）のある利用者の本人負担率を2割（現行1割）とする。

【注】65歳以上の被保険者本人の所得金額（年金収入から公的年金控除・給与所得控除を差し引いた金額から、さらに国保・介護保険料・基礎控除・医療費控除を控除）が160万円を超えるものが対象となる。配偶者が国民年金、あるいは給与所得があるなどの世帯のケースもあるがそれは省略する。

◆低所得者（住民税非課税）の施設利用者に対し、食費、居住費が補填されてきた。（補足給付）これに対し1・000万円の資産「預貯金・有価証券（株式等）・貴金属・タンス預金（自己申告）」を有する者には上限額を設け今後補足給付は行わない。

◆特別養護老人ホームの入所基準を原則として要介護3以上とする。

◆「高額介護サービス費」の負担限度額を設けられた。その負担の上限額は44・400円である。その対象者は前年度の所得額（年収から公的年金控除・国保・介護保険料・基礎控除・年間医療費などを控除した課税所得額）が145万円以上。その課税所得額が145万円以内の場合は一一般並の上限額37・200円を適用。限度額を超えた介護サービス費は払い戻される。

【注】ただし、145万円を超えた場合でも、収入が383万円未満、あるいは二人以上の合計額が520万円未満であれば一般並を適用。なお基礎

控除額は33万円（国税は38万円）である。

◆要支援1・2の対象者の訪問介護と通所介護の予防介護サービスは、介護保険事業から市町村による地域支援事業に移行する。よって、全国一律であったこれらの訪問介護と通所介護のサービスの内容や費用負担は市町村の裁量によって決められ、その介護サービスは地域のボランティアやNPO法人、あるいは民間企業への委託によって実施される。2015年度から順次移行し、2017年度末までに完了する。よって、市町村の規模、財力などの行政方針による地域間格差が生まれる懸念がある。

今後の方針に政府の本音が見える

財務省は10月9日の財政審の分科会において原則1割となつている介護保険サービス利用者の負担割合を収入に関係なく、年齢別、段階的に2割にするよう提案している。

さらに、軽度の要介護者が利用する訪問介護サービスのうち、掃除や食事の用意といった生活援助が、全体の約4割を占めていることを踏まえ、原則として自己負担とする仕組みに切り替えるべきとも指摘している。

要支援者も含め、「軽度の要介護者」に対しては、として位置づけ「自助努力」・「自己負担」を原則とする意図が明確になつている。

そこから、市町村独自の「地域支援事業」へ移行するとはどういうことになるのか。

以下次号で考え合ってみようと思う。読者の皆さんからの寄稿を求めたい。

安倍さん・空母艦載機に乗り込む

臨時国会の開催を見送り「逃げる首相」

野党が求める「臨時国会」の開催も一蹴し、18日の海上自衛隊の「観艦式」に自衛隊の最高指揮官として出席した安倍首相は、隊員に対し、今後の任務拡大への理解を求め、同時に「諸君にはさらなる任務を果たしてもらいたいと思います。私は諸君と共にその先頭に立って、全力を尽くす覚悟であります」との訓示を述べている。その後、安倍首相は横須賀基地に配備された原子力空母「ロナルド・レーガン」を訪問した。現職の総理大臣が、アメリカの空母に乗艦するのは初めてのことである。そして空母の艦上にあつた艦載機に乗り込むパフォーマンスを演じた。(二年前には迷彩服にヘルメットで自衛隊の戦車に乗り込んでいる)

これが、議会制民主主義を蹴飛ばした一国の代表の所業なのか。誰しも首を傾げることであろう。



空母艦載機の操縦席に乗り込む
安倍首相・写真(毎日新聞)

「あなたの艦隊が周りを固めていますから安心感がありますよ」とロナルド・レーガンボルト艦長は述べる。対して終始笑顔の目立つ安倍総理が「日米同盟が機能していくことを期待する」と述べると、アメリカ側は『ロナルド・レーガン』と海上自衛隊の護衛艦は、ロンヤス関係のように兄弟船」と応じたと言う。

(19日04・04 TBSニュースらの引用)



柿は赤くなり 医者は青くなる

今年の夏も異常な暑さであった。さらに晴天続きは、庭木も水枯れとなり、来る春に新芽を出すかが心配である。「水枯れ」は草木だけではない。熱中症に倒れ死者も出た。心身とも枯れ、そして限界に近かったところによくよく訪れた秋のすがすがしさにほっとする。

よく昔から言われていたことわざに「柿が赤くなると、医者は青くなる」というものがある。秋は心身をリフレッシュする。それだけではない。柿や、蜜柑、柚、リンゴなどが実をつけて色づく秋である。豊富な食べ物を口にすること

とができる。秋の果物には、豊富なビタミンC(コラーゲン生成に必要、抗酸化作用もある)が多く含まれている。例えば柿の実の栄養成分はカロチン、ビタミンC、カリウム、マンガン、食物繊維等。そして柿特有の渋味成分のシブオール(タンニンの一種)とアルコールデヒドロゲナーゼが含まれている。シブオールは胃腸をコーティングし炎症を防ぎ、また血管を強くして血圧を下げる働きがある。高血圧や脳卒中などの予防効果が期待できると言われている。

もちろん柿だけではない、みかんもゆずも豊富なビタミンCが多く含んでいる。秋の果実はすべてが良い。健康が維持される。病人が少なくなる。医者は手持ち無沙汰さになる。いわゆる「青くなる」ということだ。

含蓄のある言葉が「ことわざ」に多い。人間の長い経験の歴史が、現代の私たちに知識として伝えてくれる。

その意味でも「年寄りは大事にされなければならぬ」。だが今日では「年寄りは医療費がかかる。そして介護費だ。年寄りは金がかかる」といった言葉が、何のためらいもなく語られる。とかく、高齢者にとっては住みにくくなっていることは事実である。

どうだろうか。

この辺で「不良老人」として言いたいことを述べ、やりたいことをやってみてはどうだろうか。「良い年寄りにならなければならない」

(寄稿・不良老人)